

学校教育の成果について

1 現職教育

(1) 研究授業

本年度、半田市教育委員会から「アクティブ・ラーニング」の研究委嘱を受けました。昨年度まで取り組んできたキャリア教育を基にして、様々な教科、領域で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、そのねらいである主体的・対話的で深い学びを意識して、研究授業を行いました。

1年生は、課題の提示を具体的にすることで、課題を捉えやすくし、見通しをもって主体的に学習に取り組ませることができました。2年生は、話し合いの場面でホワイトボードを活用し、記入するペンの色を変えることで、意見の交流をしやすいしました。3年生は、話し合い活動を「会社タイム」、別のグループの意見を聞く活動を「出張タイム」とし、交流活動を積極的に行うことで課題の追究をしやすいしました。4年生は、単元の導入場面で、写真や資料映像を使ったり、個々の考えを交流させたりすることで、自分の課題をはっきりとさせ、主体的に学習の計画を立てることができました。5年生は、自分の作った俳句をグループの中で発表し合い、改善点を話し合うことで、多様な表現の仕方を学ぶことができ、俳句の作成への意欲を高めることができました。6年生では、ホワイトボードやネームプレートを活用し、話し合いによる考えの変化を視覚的に捉えられるようにすることで、自分と他の児童との考え方の違いに気づかせることができました。特別支援学級では、友達の活動を見る場面を設定することで課題に対して意欲をもたせたり、友達に既習事項を教える場面を設定することで相手意識をもって話すことへ自信をもたせたりすることができました。

アクティブ・ラーニングは、子どもたちの「生きる力」を育む基になるものです。研究授業の成果や反省を生かし、今後も引き続き充実した実践を行っていききたいと思います。



3年算数

(2) 現職研修

① アクティブ・ラーニング研修会

アクティブ・ラーニングへの共通理解を図ることを目的として、愛知教育大学准教授の加納誠司先生をお迎えして、研修会を行いました。

1回目は、アクティブ・ラーニングが必要とされるようになった背景や、アクティブ・ラーニングによってどのような力を育てていかなければいけないかを学びました。2回目は、アクティブ・ラーニングに取り組んでいる他校の実践を取り上げて、「主体的・対話的で深い学び」について、具体的に教えていただきました。また、雁宿小学校で行った研究授業についても、アクティブ・ラーニングの視点からアドバイスをいただき、充実した研修となりました。



② 掲示物作成研修

本年度も、榎原澄子先生をお招きして、夏休みに掲示物の作成研修を行いました。毎年、かりやど祭りで子どもたちの作品を展示するときの題字や、掲示板の飾りを作ることが恒例になっています。様々なアイディアが盛り込まれた澄子先生の作品をお手本にして作成できるので、とても参考になります。様々に工夫された作品が、教室や廊下の掲示板を飾ることができるのは、この研修会のおかげです。



③ Q Uテストの活用研修会

Q Uテストとは、児童生徒一人一人についての理解と対応方法、また、学級集団の現在の状態と今後の学級経営の方針を把握することができる補助ツールです。

名城大学の杉村秀充先生をお迎えして、本校で行った実際のQ Uテストの結果を基に、その分析方法や活用方法について教えていただきました。Q Uテストを活用することで、子どもたちの状態を客観的に捉えることができ、学級経営に生かしていくことができるので、とても便利なツールであるという感想を多くの先生がもちました。

2 学校情報の発信

学校のホームページでは、日々の子どもの様子をはじめ、最新の情報や行事予定を伝えています。保護者の皆様に興味をもって見ていただけるように、更新を心がけています。また、不審者情報や急な予定の変更等、緊急を要する情報については、学校メルマガでもお伝えしています。

3 開かれた学校

(1) 学校運営支援協議会

保護者、地域及び学校が情報を共有し、地域社会全体で子どもを育てることを目的として、学期に1回学校運営支援協議会を開催しています。委員となっているのは、コミュニティの会長や民生児童委員、元PTA会長や現在のPTA役員です。地域に住むいろいろな立場の方々と学校職員が、学校の現状を確認し、子どもたちの生活や学習を含め、教育活動全般について意見交換を行っています。現在、学校と地域とが結びついた活動が重要視されています。地域と学校との連携がますます強くなっていくことを願っています。

(2) かりやど祭り

たくさんの保護者や地域の方々にお手伝いをいただき、35回目という節目のかりやど祭りを滞りなく行うことができました。今年度は、特に安全な山車巡行が行えるように、山車の周りに付く人たちの役割を明文化して確認しました。

祭りが終わると、毎年いろいろな反省が出てきます。良い伝統は引き継ぎ、必要なところは変えながら、すばらしいかりやど祭りの伝統を守っていききたいと思います。

